

グローバル通信

Ryukoku University

GLOCAL TSUSHIN

2026.8 vol.71

ソーシャルイノベーションデザイナー資格を取得して	1
地域公共人材総合研究特別演習担当者からのメッセージ	2
2026年度一特別演習新入生紹介	3
2025年度を振り返って	4
グローバル通信編集スタッフ紹介	4
事務局インフォメーション	4

近畿地方でも梅雨明けが報じられ、うだるような暑さがやってきた今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回のグローバル通信では、ソーシャルイノベーションデザイナー(SI-D)資格を取得された方の声や特別演習を担当する先生方のメッセージに加え、新入生の紹介を掲載しております。本年度も多くの学生が入学し、様々な研究テーマを掲げて研究活動に勤しんでおります。

前号に引き続き、昨年度の大学院生活を振り返っての記事も掲載しておりますので、今後ご入学を検討されている皆様にとって有益な情報になりますと幸いです。

ソーシャルイノベーションデザイナー(SI-D)資格を取得して

ソーシャルイノベーションデザイナー(SI-D)とは、ソーシャル・イノベーション人材のための職能資格です。社会や暮らしにおける課題の発見から、イノベティブな視点での分析・把握、新規かつ効果的な解決策の構想、事業化に向けた企画までを形にする力を有します。さらに、その事業企画を実現するための組織を築いて実践につなげ、新しい価値の創出、課題解決、そしてその成果を社会へ普及させるプロセスを一気通貫で牽引できる人材です。5つの教育要素(包括的視点、社会構造・社会課題、起業・マネジメント、イノベーション・変革、実習・演習)の充足が必要であり、持続可能な社会変革の担い手として活躍が期待されます。

政策学研究生 修士2回生 山本安紋さん

ソーシャルイノベーションデザイナー資格の取得を通じて、社会課題の読み解き方やその解決策の生み出し方について学ぶことができました。

学びを深める中では、社会課題とは何を持って課題とされているのかを学問の視点から丁寧に読み解き、さらに当事者にも話を聞くことで社会課題の背景をしっかりと捉えられるようになりました。解決策を生み出す際にも、学問の視点と現場の視点の双方を取り入れており、どちらかに傾倒することのないバランス感が重要であると感じました。

また資格を取得する中では、現場の方の声を聴けたことや大学の先生方からフィードバックをいただけた点が大きな学びとなりました。現場の方からは自分たちの考えた案が現場に即したものになっているのか、大学の先生からは課題から解決策までロジカルに考えられているのかなど、フィードバックから気づかされることも多く、修正とフィードバックを繰り返す中で大きく成長できたように感じます。

資格を取得できた際は達成感を感じましたが取って終わりではなく、資格の取得の中で培った力を社会に還元できるように頑張りたいと思います。

政策学研究科 修士2回生 西口高貴さん

ソーシャルイノベーションデザイナーの資格を取得して、課題解決への視点が広がりました。この資格では、社会課題の本質を見抜く力と、多様な人々を巻き込みながら解決策をデザインする手法を学びました。単にアイデアを出すだけでなく、当事者の声に耳を傾け、共感し、自分ごととして捉えることをもとに仕組みをつくることの大切さを実感しました。それに従い、自分の専攻以外にも他分野の学問やさまざまな物事に興味を持っておくことがこの資格のキーとなり、さまざまな視点からアプローチを行えることが重要なポイントになると思っています。

資格取得過程で特に印象に残ったのは、「小さな一歩から始める」姿勢です。大きな構想を描きながらも、まず身近なところで試しつつ改善を重ねていく。その積み重ねがやがて社会変革につながる力になるきっかけになると思います。この資格は就職後や将来、まちづくりに関わる現場において大いに生きると思うので、今後学び得たことを発揮できるようにイノベティブな考え方を日常で特訓して実践していけるように努めていきたいです。3大学連携によるプログラムで学ぶ過程でたくさんの出会いや知見を得ることが出来たので、本当にとってよかったプログラムです。

特別演習担当者からのメッセージ



高畑 重勝

地域公共人材総合研究
プログラム運営委員長
(龍谷大学政策学部教授)

地域公共人材研究プログラム運営委員長を務めています高畑重勝と申します。
このプログラムは、開設された2003年度から20余年の実績を重ね、これまで数多くの高度な専門的職業人を輩出してきました。理論と実践を架橋する学びを提供するため、数多くの授業が開講されていますが、なかでもこの特別演習は、指導教員とは別の2名の教員が議論に加わり、様々なバックグラウンドを持つ院生が活発に意見を述べ合う研究と交流の場となっています。企業人として、公務員として、あるいはNPO職員として仕事をしながら研究する院生、グローバルな視点で議論を活性化する留学生、フレッシュな感覚で意見を述べる学部卒の院生が、互いに刺激し合いながら進める演習は教員の私自身にとりまして、とても楽しく、気づきを得る時間になっています。
必修となっているこの科目を通じて、さまざまな社会の課題を対象に、その解決に向けて、高い政策立案能力、課題解決能力、そして新しい価値を生み出していける力を培うことができます。社会は、さまざまな課題を抱えながら、日々大きく変化しています。未来の社会にあっても、人が生きる基盤である地域に軸足を置き、高い倫理観の下に専門的な知識と高度な課題解決能力を持つ地域公共人材は、ますます活躍が期待されるものと確信しています。このプログラムを通じて、未来を創る多くの人々が集い、学び、共に高め合えることを願っています。



内田 恭彦

(龍谷大学政策学部教授)

そんな時、自分が当然だと考えていたことが相対化され、これにより研究テーマに対する深い洞察が得られるのです。第3が我々教員は研究方法や関連する理論や研究の紹介、アドバイスをを行い、皆さんの知の冒險をより豊かで楽しいものにしていくようにサポートしていきます。

上記の3つのことから知的刺激を受けるための場が特別演習なのです。この演習と指導教員の指導の下修士論文を書き上げたとき、以前とは異なる深いレベルで社会の様々な現象を捉え、今後社会をより良くしていく案を出せるようになるでしょう。



松尾 秀哉

(龍谷大学法学部教授)

この授業を担当させていただいてもう9年目となります。毎年、最初は緊張気味だった受講生の方々が、回数を重ねるごとに活発に発言し、社会人と院生の壁を越えて親しくなっていく様子を楽しみながら見守っています。

この授業の醍醐味はまさにそこにあり、まさに年齢や立場を越えて意見を交わせるところにあります。純粋な学問の枠内では年齢や立場、経験で上下の差はなく、互いに学問的な真実を求めて切磋琢磨できます。それを大いに楽しんで、そして成長してください。批判し、ディフェンスし、というやり取りを学問的営為として楽しむという心構えがこの授業には大切です。そして、そういう過程を経て得た友情は長く続きます。たとえ将来立場は変わろうとも、そこにはやり取りを経て芽生えた友情が生まれます。こうした友情は、社会の中ではなかなかないいいものです。どうぞ新しい友情を獲得する場としてもこの授業を考えてください。

私は前期だけの担当で、後期はこの授業ではなく、大学院の授業を履修した方としか話せませんが、皆さんが無事に論文を執筆できることを心から願ってやみません。そして楽しんでこの日々を過ごしてください。



今里 佳奈子

(龍谷大学政策学部教授)

特別演習は、年齢、国籍、専門、学歴、職歴など、様々な背景をもつ方々が、ともに社会課題と向き合い、研究を深める場となっています。2026年度の特別演習(内田先生・今里担当)は、社会人院生・留学生院生・若手院生(政策学部・他学部・他大学出身)など、全14人から成る大混成部隊。毎回、分野も視角も異なる報告とそれに続く活発な議論が行われています。6月現在、それぞれの院生が2回目の報告を終えたところですが、回を重ねるごとに研究の輪郭がより明確になり、報告のレベルもどんどん上がるのは、単にご自分の研究を深めるだけでなく、年齢も経験も異なる様々な方達との切磋琢磨や交流によるところが大きいのではないかと思います。

また、研究にとどまらずに、人的ネットワークがどんどん広がっていくのも、この特別演習の大きな効果でしょう。私は前期のみの担当となりますが、この演習の成果を修士論文報告会で聞くことができるのを、そして卒院後も皆さんが築いたネットワークが大きな力となって社会で課題を解決していく様子をみるのを楽しみにしています。



湯浅 孝康

(龍谷大学政策学部准教授)

この春に政策学部に着任し、後期から特別演習を担当します湯浅です。さて、本演習は地域公共人材総合研究プログラムのコア科目に位置づけられ、必修となっています。この理由のひとつとして、私は、本演習での学びが地域公共人材の考えそのものに通じる点があげられると考えています。地域公共人材とは、端的に言えば、現在の協働型社会において、地域の公共的活動あるいは政策形成の主導やコーディネートを、セクターを越えて実施できる高度な職業人としての専門性を備えた人材を指します。本プログラムは、2003年度に開設されたNPO・地方行政研究コースを前身としています。

同コースの開設の際、21世紀の分権型社会を担う人材として、この地域公共人材の育成が目指されました。以後、同コース、また本プログラムを修了した多くの方々が、さまざまな立場から各地域で活動されています。現代社会は多様な人々で構成されています。そして、本プログラムにも多様な方々が集まっています。本プログラムを通じて、学問分野間、研究者と実務家、世代間など、さまざまな違いを越え、互いを尊重しながら広く学ばれるとともに、修了後は地域公共人材として活躍されることを期待しています。



渡辺 博明

(龍谷大学法学部教授)

後期(土)の授業を担当する渡辺博明です。専門は北欧政治、特にスウェーデンの政党政治研究です。対象地域の事情から、教育・福祉・労働分野の政策についても勉強してきており、地方・地域の政治にも関心をもっています。2013年に本学に着任して以降、通年または半期で特別演習を担当してきました。この演習の特色は、社会人大学院生の熱意に支えられた充実した議論の場であるという点にあります。自治体やNPOでの豊富な実務経験をふまえ、具体的な課題意識をもって集まる皆さんの研究報告と討論は、今日の大学教育において非常に貴重なものだと感じています。また、

学部から進学した大学院生の皆さんは、柔軟な発想にもとづく問いや意見で議論に広がりをもたらしてくれますし、そこから自身の問題関心や研究方法についての理解を深めてもらうことが期待されます。

この演習は、教員にとっても、毎回提示されるさまざまな分野の現実的課題をどのように整理し、論文作成に結びつく助言ができるか、自らの力量が試される場でもあります。多様な背景をもつ参加者が互いに刺激し合い、高め合いながら、ともに学んでいきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

2026年度－特別演習新入生紹介

土



陳 一帆:中国出身、2年前から来日しました。アメリカの大学では工業デザインを専攻として勉強してきましたが、環境問題に関心をもって、現在は「Learning to read」をしながら炭素排出情報開示に関する研究を行っています。どうぞよろしくお願いします。



山口 有香:コミュニティ・バンク京信で働いて、今年21年目を迎えました。同い年の夫と高1、中2の娘がいます。職場の仲間、家族、皆が私の大学院での学びを応援してくれています。私自身の経験から「ワーキングマザーはソーシャル・イノベーションを起こせるか?」という問い(希望)を持ち、研究を進めたいと思います。よろしくお願いします。



柴田 将明:龍谷大学政策学部から進学しました。学部生の頃から地域レジリエンス(災害復興)や交通政策などを中心に都市計画を学んでいます。大学院でも都市計画についてより一層研究を深めることができたいなと考えています。



石原 和弥:2021年に龍谷大学政策学部を卒業し、その後は京都にある社会福祉法人で障害者の対人援助に携わってきました。その経験の中で「障害福祉をもっと地域社会に接続させるためには」という問いを持つようになりました。そしてもう一度、チーム政策で学びたいと強く感じ、龍谷大学政策学部に戻ってくることにしました。自分の興味を追求できる環境に感謝し、とことん楽しんでいきたいです。



高島 教生:市役所で長年水道事業に携わり、老朽化による漏水事故の増加と現場負担の深刻化を実感してきました。現場経験だけでは解決できない課題に対し、政策的視点から老朽化対策や更新投資のあり方を研究し、持続可能な水道事業の実現に貢献したいと考えています。



東 直美:東日本大震災を機に、防災・福祉・ボランティアの業務に取り組んでいます。現場ばかりでしたので、研究として論理的に論述することに苦労していますが「地域防災計画」をキーワードにした研究を頑張りたいと思います。



許 清源:趣味は旅行で、新しい土地や文化に触れることが好きです。現在は和歌山県を対象に、営農型太陽光発電(ソーラーシェアリング)の実態とインセンティブ手法について、農家への半構造化インタビューを中心に研究しています。どうぞよろしくお願いいたします。



松田 結美:昨年より大津市からJIAMへ出向しています。比叡山と琵琶湖に挟まれた坂本に住んでいます。「働き続けたい自治体にするにはどうしたらいいのか」について研究を進めています。貴重な学生生活を大切に、沢山のものを持ち帰れるよう、学んでいきたいです。皆様どうぞ宜しくお願いいたします。



コウ レイ:中国からの留学生です。大学ではアラビア語を専攻していました。趣味はライブハウスに行くことと映画鑑賞で、ディズニーアニメやミステリー映画が好きです。研究テーマとしては宗教政策に関心があり、新植産産建設兵団における宗教政策の変遷や、その政策が地域統治にどのような役割を果たしてきたのかについて研究したいと考えています。



上田 萌乃:龍谷大学の政策学部での学びを通して、卒業論文で研究の面白さを実感したことをきっかけに大学院進学を決めました。将来は、誰もが生きやすい社会づくりに貢献できる人材を目指し、大学院では精神障害に関する社会的認知や就労支援について研究したいと考えています。



岡部 佳美:大日本印刷株式会社から3年間文化庁に出向し、文化財活用に関する事業や現場支援に携わってきました。文化財を保存するだけでなく、地域や事業者、所有者が協働しながら持続的に価値を生み出す仕組みに関心があります。内田先生にご指導いただきながら、文化財活用における持続的事業化の機能要件について研究したいと考えています。



小倉 凛子:政策学部卒で院進しました。日々の少しの出来事を今までの学びと結び付けて考えることが楽しく、特に都市デザインについてより深く探求したいです。現在は、知識の再価値づけの役割としての古書店が地域にどのように存在しているのかという点を、多面から捉えています。

水



神山 元伸:私は大津市の行政職員です。これまで「政策」について深く学習した経験がありませんでしたが、この度ご縁があり龍谷大学大学院政策学研究科で学ぶ機会をいただきました。特に都市計画やまちづくりについて関心があり、深く学びたいと考えています。多様な大学院生の皆様と共に楽しく学ぶことができれば嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。



斎藤 紋子:社会人として実務経験を重ねる中で、体系的に学び直したいと思い大学院に入学しました。政策学研究科での学びは、自ら問いを立てる主体性が求められ、思考を深める難しさを実感しつつも日々刺激を受けています。持続可能なまちづくりや地域社会との協働といった分野に関心があり、探求していきたいです。



田邊陽子:滋賀県大津市在住。社会人として政策学研究科1年に在籍し、地域ポテンシャルの向上を研究しています。神社仏閣や仏像、滝巡りが四季で、趣味は精進作品や和紙クラフト制作です。地域では男女共同参画やひとり親支援活動に携わっています。



田中 良哉:滋賀県の東近江市にある環境／農業NPOに所属しております。研究テーマは、「教育旅行民泊における農村ジェンダー規範の構築性と擾乱可能性」です。「語り」の分析とアクションリサーチをもとに、政策的で実証的な研究をしたいと考えています。



泉 武登:私は、滋賀県にある金融機関で渉外担当として勤務しています。日頃から地域のお客様を訪問する中で、地域経済やまちづくりに関心を持つようになりました。現在は、商店街の衰退要因を分析し、持続可能な地域活性化の方策について研究しています。企業支援に加え、地域全体の発展に貢献する視点を持ちながら研究を進めています。



木谷 充康:大阪府貝塚市で障害福祉サービス事業所を運営しています。障害福祉事業について、現場からの視点しか持ち合わせておらず、広い目線でも事業を見たいと思い、学ばせていただいています。この学びが自分と周りの人への貢献に活かせることができるように頑張りたいと考えています。



カク イブン:学部では中日の化粧品広告における女性像の比較研究を行い、メディアとジェンダーの関係に関心を持ちました。現在は、日本の「男女共同参画計画」と中国の「婦女発展綱要」を比較し、両国のジェンダー政策における表現や推進体制の違いを明らかにする研究に興味を持っています。

豊原 大貴:はじめまして。地方自治体の職員として勤務しながら、大学院では、「地域おこし協力隊」の自治体における制度運用について、研究しています。仕事と研究の両立に苦労していますが、多くの学びを得られており、充実した大学院生活が送れることを確信しています。

山崎 有希子:行政事務職員ですが福祉現場での勤務経験が長く、数年前に社会福祉士・精神保健福祉士資格を取得し、高齢者支援や地域包括ケアの推進に取り組んでいるところです。大阪市を対象として死後事務に関する現場調査と先行研究を組み合わせた政策分析を行いたいと考えています。

上原 萌花:政策学部出身です。学部時代は都市計画や都市デザインについて学んでいました。サウンドスケープ分野に興味があり、大学院では、地域資源としてのサウンドスケープに関する研究を進めています。

陳 毅邦:上海出身です。研究計画書の題目は「中国におけるストリート・レベル・ビューロクラシーの裁量権に関する研究－医療救急分野を中心に－」です。自身の経験から、官僚の裁量権に興味を持ち、大学院に進学しました。趣味は音楽とランニングです。

川崎 里美:所属は長浜市役所で、現在は長期研修派遣生として滋賀県庁で仕事をしています。以前、観光協会に出向していた経験から、研究テーマは長浜市の観光を題材にする予定です。課題が沢山あり、しんどいときもありますが、院生のみなさんのおかげで楽しめています。改めて、1年間よろしくお願いします！

山口 陸:「田んぼのいきものを復活させる!!」水生昆虫に夢中になっている山口陸です。龍谷大学経済学部環境サイエンスコースから進学しました。ゲンゴロウの米を舞台に水生昆虫保全について研究しています。よろしくお願いします。

2025年度を振り返って

政策学研究科 修士2回生 北野嘉秀さん

社会人学生として、平日の講義や休日の特別講義・ゼミ、さらには宿泊などにも参加した昨年は、本当にあっという間の一年間でした。

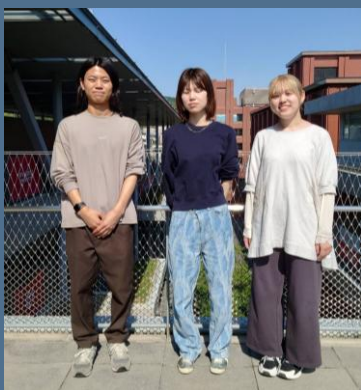
その一年間の学びは、社会課題の本質を捉えて変革するソーシャル・イノベーション、環境政策、AI、財政学、ローカル・ファイナンスなど様々で、これまで深く考えたことがなかったことや知らなかったことばかりでした。しかし、なにより共に学び、議論をした素晴らしい人との出会いが私にとって貴重な財産になったと感じています。

いよいよ修士論文を書き上げていかねばならない時期が近づいています。しかし共に学んだ社会人の多くは一年制で、今春にすでに修士課程を修了。昨年のように講義終わりに飲んで議論はできないし愚痴も言えない・・・しかし、ご指導いただく先生やゼミの先輩方に恵まれ、お尻を叩かれながら、これまで学んだことも思い出しながら、少しずつではありますが、おそらく成長しています。

きっと今春に修了したみんなも同じだったんだろうなあ、と思いながら、夏の中間発表会に向け、資料を作成しています。それが終わったら、いよいよ来年1月の修士論文提出となりますが、残り数ヶ月間、全力で研究に取り組んでまいります。



編集スタッフ紹介



グローバル通信71号は、前年度から引き続き山本安紋と今年度から担当する上田萌乃と小倉凜子の3名で編集いたしました。2026年度も魅力あるグローバル通信をみなさまへお届けできるよう努めます。よろしくお願いいたします。

政策学研究科 修了生 鎌田康輝さん

月日は早いもので、4月以降、スーツを着て決まった時間に職場へ向かう生活が始まり、私の日常は大きく変わりました。昨年度まで、毎日夜遅くまで研究室に籠る日々を送っていました。PCと向き合い続ける日々は、今では懐かしく感じられます。周囲から「研究室に住んでいるのでは」と冗談交じりに言われるほど研究に没頭していましたが、その一方で、自分の未熟さや力不足を痛感する場面も数多くありました。それでも、先生方や家族、先輩、友人に支えていただいたことで、大学院での2年間で最後までやり切ることができました。研究や授業に追われる日々は決して楽ではありませんでしたが、自分自身と向き合いながら考え続けた時間は、精神的な成長につながったように思います。本来であれば、社会に敷かれたレールの上を進んでいたかもしれません。しかし、あえて立ち止まり、大学時代に抱いた鉄道跡地活用の疑問を追い続けた2年間は、私にとってかけがえのない時間となりました。

研究を進める中では、アイデアや研究の切り口が、机に向かっていくときだけでなく、湯船に浸かっているとさや通学中の原付バイクの上など、日常のふとした瞬間に浮かぶことが多くありました。そのため、思いついたことはすぐにメモすることを心掛けていました。

現在は、大学院で培った経験や考え方を生かせる職場で、実務中心の日々を送っています。しかし、ときには立ち止まり、物事を深く考え、学術を体系的に学び続ける姿勢を忘れずにいたいと思います。大学院で過ごした時間は、今後の自分にとって大きな財産になると感じています。

事務局インフォメーション

2026年度 協定先懇談会報告



7月30日(木)、昨年度に引き続き対面とオンラインのハイブリッド方式にて開催し、約30団体のみなさまのご出席を賜りました。

意見交換の場では本学へのご意見や修了生として経験をご紹介いただくなど、有意義な時間となりました。

2027年度 協定先推薦入試日程

11月入試	【出願期間】 【試験日】	2026年10月1日(木)～10月8日(木) 2026年11月8日(日)
2月入試	【出願期間】 【試験日】	2027年1月2日(土)～1月15日(金) 2027年2月20日(土)

※政策学研究科のみ

地域公共人材総合研究プログラム ニュースレター

発行 / 龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム

連絡先 / 政策学部教務課

TEL : 075-645-2285 FAX : 075-645-2101

『グローバル通信』 通巻71号 2026年8月

HP/https://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/

編集 / 上田萌乃、小倉凜子、山本安紋

編集補助 / 神野華奈子、越野智晶

監修 / グローバル通信編集委員会